

営農情報

10月は台風による農作物への被害が心配されます。今後の気象情報に注意し、事前の対策をお願いします。

■りんご「ふじ」の着色管理

○支柱立て

・着色管理は支柱の立て直しや枝つりから行い、大枝同士の間隔を空け、樹冠内部まで光が入るよう樹全体の日当たりを良くしましょう。

○葉つみ・玉回し

・「ふじ」の葉つみ、玉回しは2～3回に分けて行う。1回目の葉摘みは9月末頃～10月上旬に、果そう葉を主体に摘みましょ。2回目は10月中旬頃から、果実周辺の葉と徒長枝や発育枝の葉を摘み、2回目の葉摘みとあわせて玉回しを行いましょ。その後も、着色の状況を確認し、葉摘み、玉回しの修正を行って下さい。

※葉摘みの際、黒星病の被害葉は、摘み取り土中に埋めるか、園地外に持出し適切に処分して下さい。

※1回目に葉摘みを多くすると、着色遅れの原因、来年の花芽の充実が悪くなるので注意する。

※反射シートは収穫30日前頃（10月上旬）を目安に設置する。

■りんご黒星病対策

今年のりんご「黒星病」の発生は最小限に抑えられましたが、被害果、落葉した被害葉は翌年の発生源となります。次年度以降も発生を抑えるため収穫後の薬剤防除を徹底し翌春の菌密度低減対策が重要です。

○薬剤防除

・収穫後防除

腐らん病の同時防除を兼ねて石灰硫黄合剤 10 倍またはペフラン液剤 25、1,000 倍の散布

■稲刈り後は出来るだけ早く秋耕を！

稲刈り後は出来るだけ早く秋耕を行うことで、『稲わらの分解』が促進されます。

○『稲わらの分解』のメリット

・代かき時の浮きわらが減り、苗の植え付け精度の向上や、除草剤の効果が安定します。

・ワキ（異常還元）の発生が減り、初期生育の改善や収量、品質の向上が見込まれます。

○『稲わらの分解』腐熟促進

いずれか1つを使用する

肥料名	施肥量（現物）	施肥時期
ワラ分解キング	10kg	刈取り後
石灰窒素	20kg	刈取り後

※腐熟の促進を図るため、刈取り後できるだけ早く散布し浅く耕す。